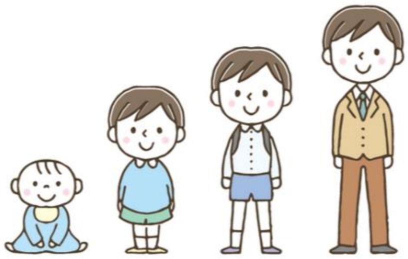
育脳寺子屋NEWS

2022. 11. 1

（お子さんが大人になったとき、社会で活躍できるヒントがいっぱい）

大切な我が子、将来はどんな
大人になってほしいですか？



今回は子育てをする際の考え方の根幹ともいえる、**「子どもたちをどんな子に育てたら良いか」**について、私達なりに考えてみたいと思います。はたして皆さんの考えは、私達と同じでしょうか？

これからの時代はどうなっていくか？

ご存知の通り、これからはＡＩ（ロボット）の時代だと言われています。ＡＩが得意な決まった仕事（ルーティンワーク）しかできない人はＡＩに職を奪われ、ＡＩが苦手とするクリエイティブな仕事ができる人は、仕事に困ることはないと予測されています。

またニューヨーク州立デューク大学のキャシー・デビッドソン教授の予測によると、今の子供たちの **65%**は今ない職業に就くとも言われています。

そんな中、厚労省は平成 28 年 12 月「働き方の未来 2035」で衝撃の予測をしています。

その内容を簡単にまとめると**「2035 年には、日本から正社員という雇用形態がなくなる」**というものです。この報告書を作成した懇談会事務局長の東京大学教授、柳川範之氏はこう言います。

「人口逆ピラミッド問題などで、会社が終身雇用を維持するのは、限界にきている。技術革新した 20 年後、どれだけの会社が生き残っているでしょうか？　今後は倒産、リストラなど正社員であっても安泰ではない。今までと違う働き方、安心が模索されるでしょう」

報告書に書かれているこれからの働き方というのは、各企業がミッションやプロジェクトの度に人を募集し、そのプロジェクト期間はその企業に属するが、プロジェクトが終了するとその企業には属さなくなる。というものです。

能力の高い人は同時にいくつもの企業に属し、同時進行でいくつものプロジェクトを進めていくでしょうし、能力のない人はどの企業にも属せない・・という二極化が顕著になると予想されているのです。（ほぼ個人商店の状態ですね）

厚生労働省がこのような発表を大々的に行ったということは、「こうなるだろう」という予測ではなく、意図的に「こうしていきます」と未来の働き方を発表しているかのようにも思われます。

つまり、今までの「常識的」や「一般的」という働き方の概念は、通用しない時代に突入していくのです。

これからの社会で活躍できる子とは？

育脳寺子屋の指導理念は**「社会に出てから活躍できる子を育てる」**の一言に尽きます。

一昔前までは「学歴社会」だったので、親がお金で買ってでも子供に「学歴」を与えてあげれば、大学卒業後にはある程度の就職先が用意されていて、会社に入ってしまえば終身雇用、年功序列で40歳・50歳なら年収いくら・・と計算できた時代でした。

しかし、よくお分かりのようにそんな時代はとうに終わりを迎えています。

今や東大生でも就職が決まらない子も多いですし、一流企業に就職しても平気で大量のリストラが行われます。しかし、学歴はなくともどんどん人を巻き込んで大きな仕事をし、結果を残していく人も多くいます。学歴社会では「どんな道を通って来たか」が重視されましたが、今の社会は「通ってきた道はどうでもいいから、今この子にどんな能力があるか」が問われる社会に変わったのです。

では、「社会に出てから活躍できる人間」とはどんな人間でしょうか？

挙げればきりがないですが、一言でと言うと**「学ぶ力のある子」**だと思います。

社会人になった時点では優秀な子、そうでない子の差なんてちっぽけなものです。その差は社会人になってからの「伸びしろ」次第ですぐ逆転できます。その伸びしろが「学ぶ力」なのです。

社会に出ると研修という名の勉強をする場は与えられますが、研修後は手取り足とり懇切丁寧に、1から10まで教えてもらえることはありません。そんな中、学生の頃とは違い常に「結果（数字）」を求められるようになるので、戸惑う学生が多いのです。

教えてもらえなくても人のふりを見て学ぶ力、まずは自分で動いてみて失敗から学ぶ力、知らないことを自分自身で調べて学ぶ力などなど、教えてもらわなくとも「自ら学ぶ力」のある子は、答えが一つでない社会に出てからも活躍できるのは間違いありません。

企業の方々いわく、一流大学を出ているのに「それ、教えてもらったことがないので分かりません」と言って、自ら考えて動きもせずにまず教えてもらおうという姿勢の人が多いと聞きます。

ある教育関係の専門家は、

「高学歴の若者はほとんどが有名進学塾や予備校の出身者で、講師に与えられた課題をこなすことで学歴を手に入れている。このような勉強法を小学校から大学まで続けていたのに、社会に出た途端『自分で考えて動け』と言われて戸惑うのです。つまり、社会に出て初めて壁にぶち当たり、劣等感を感じ、『この会社は自分に合わない。もっと自分に合った会社で働こう』と早々に退職する人も少なくはない」

と仰っていました。（あるニュース番組のコメンテーターの言葉ですが、どなたかは失念してしまいました・・）

学生の間は学費を払っているので態度が悪くともよほどのことをしなければ学ぶ権利を奪われることはありませんが、社会人になった途端、働いた対価としてお金を頂くという関係性に変わります。勤務態度が悪ければその会社で働く権利を失ってしまいます。社会に出るまでの間に、学生と社会人の違いを理解させてあげないといけませんね。

人生にとって、一番重要なこととは？

105 歳でお亡くなりになる直前まで生涯現役医師だった日野原重明さんが、生前このような言葉を残されました。

「人間にとって最も大切なのは、命の長さだと思っている人は多い。
しかし、重要なのは、いかにして命を使ったか、すなわち人生の質である」

これだけ多様化した時代、人にとっての『幸せ』というのは本当にバラバラになりました。100 人中 99 人に「あの人は幸せ者ね～」と言われる人でも、本人が「幸せ」を感じていなければそれは幸せではないでしょうし、逆に 100 人中 99 人が「あの人は幸せではない」と言っても、本人が「幸せ」と感じていればそれは幸せなのでしょう。

自分で自分のことを知り、世間のことも知り、その中で自分の道を決め、進んで行くということは先述の「学ぶ力のある子」でないとできません。

多感な青春時代に、常に受け身で課せられた課題をこなすだけで精いっぱいな生活を送ってきた子は、いざ自分は何がしたい？と問われた時に「何もない」となってしまうことが少なくありません。（もちろん全ての子がそうだ！ということではありませんよ）

私たちは、当然学校のテストや成績、志望校に受かることも目標に教科指導をしています。しかし、最重要視しているのは**「学ぶ力」**を卒塾するまでに身に付けてあげるということです。

くり返しになりますが、「学ぶ力」のある子は勉強だけでなく、社会に出てからも、趣味や遊びの分野でも活躍できます。「伸びしろ」があるからです。そしてその上で**「いかにして命を使うか」**を見つけ出してくれれば言うことはありません。

京大教育研究会 TEL0774-32-1917
育脳寺子屋宇治黄檗教室 TEL0774-32-1059

『人生の質』を高めよう！！

みなさんには「将来の夢」ってありますか？
自分にとって、幸せを感じる瞬間ってどんな時だろう・・。

100歳を超えてもお医者さんを続けた日野原さん

まだまだ将来の夢なんて無い・・将来就きたい仕事なんてわからない・・そんな人がほとんどだと思います。将来自分は何がしたいかなんて、そんな簡単に分からないですね。

100歳を超えても現役のお医者さんをしていて、先日105歳で亡くなった日野原さんという方が、「**人間にとって最も重要なのはいかにして命を使ったか。すなわち人生の質である**」と仰っていました。

つまり、「生きがい」を見つけて一生懸命生きよう！ということです。今はまだまだ何が生きがいか分からないけれど、生きがいを見つけることができれば幸せな人生を送れますよね。

将来、自分なりの「生きがい」を見つけられるように今はその準備を頑張りましょう。準備とは・・そう、勉強ですね。嫌々させられ勉強をするのではなく、「自分で学ぶ力」を身につけようね！

偉人の名言

「人間にとって最も重要なのは
いかにして命を使ったか、すなわち人生の質である。」

日野原重明　～100歳を越えても現役だった医師～

自分の部屋の目立つところに貼って、読み返すようにしましょう。